

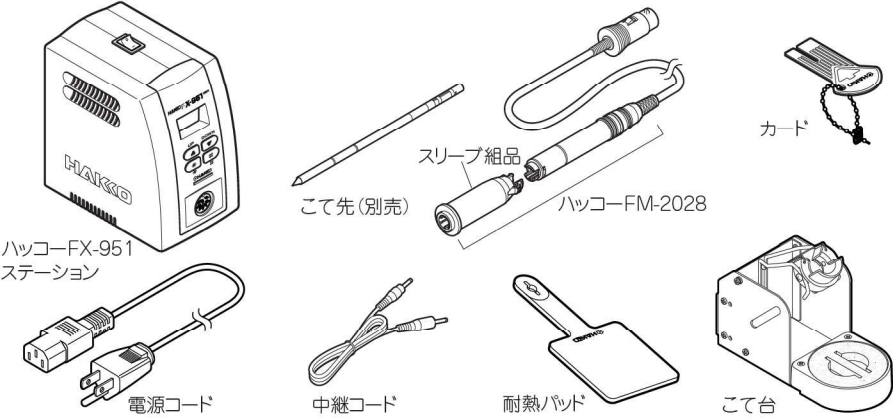
取扱説明書

このたびはハッコー FX-951をお買い上げいただき
まことにありがとうございます。
お使いになる前に必ず本書をお読みください。
お読みになった後も、後日お役に立ちますので大切に
保管しておいてください。

1. セット内容と各部名称

最初にセットの内容をご確認ください。

ハッコーFX-951ステーション	1	耐熱パッド	1
ハッコーFM-2028	1	こて台	1
カード	1	中継コード	1
電源コード	1	取扱説明書	1



2. 仕様

電源	AC 100V 50/60Hz
消費電力	75W
制御温度	200～450℃ (400～840°F)
温度精度	無負荷時リップル温度±5℃ (±9°F)

●ステーション部

出力	24V
外形寸法	80 (W) × 130 (H) × 131 (D) mm
重量	1.2kg

●ハッコーFM-2028 (こて部)

品名	ハッコーFM-2028
品番	FM2028-01 (黄)
消費電力	70W (24V)
こて先アース周抵抗	2Ω以下
漏れ電圧	2mV以下
コード	1.2m
全長 (除コード)	188mm (2.4Dをつけた場合)
重量 (除コード)	30g (2.4Dをつけた場合)

※ 温度表示はハッコー 191, FG-100で計測した温度です。
※ 本製品は静電気対策されています。
※ 本製品は中国RoHSに対応しています。
※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります
ますが、あらかじめご了承ください。

■ 静電気対策品への取り扱い注意

本製品は、プラスチックへの導電性付与、こて部・ステーション部の接地といった静電気対策が施されていますので、下記の注意を厳守してください。

1. グリップなどのプラスチックは、絶縁物ではなく導電性プラスチックです。修理時には十分注意を払い、活電部の露出・絶縁材の損傷がない様部品交換、修理を行なうこと。
2. 必ず接地して使用すること。

■ 中国RoHS: 产品中有害有害物質或元素的名稱及含量

部 件 名 稱	有毒有害物質或元素					
	鉛(Pb)	汞(Hg)	鎳(Cd)	六價鉻 (Cr(VI))	多 溴 聯 苯 (PBB)	多 溴 二 苯 醚 (PBDE)
焊鐵部	×	○	○	○	○	○
插座	×	○	○	○	○	○
插頭	×	○	○	○	○	○
○：表示該有毒有害物質在該部件所有均質材料中的含量均在SJ/T 11363-2006 標準規定的限量要求以下。 ×						
×：表示該有毒有害物質至少在該部件的某一均質材料中的含量超出SJ/T 11363-2006 標準規定的限量要求。						

注有「附帶BS插頭」之時，表示「插頭」為含有有害物質的部件。

3. 安全及び取扱い上のご注意

警告

この説明書では、注意事項を下記のように「警告」「注意」の2つに区分して表示しています。内容をよく理解されてから本文をお読みください。

警告：誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意：誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注 記：説明中の工程で重要な手順や事項を示しています。

例：例は特定の手順、ポイントまたは行程を具体的に示しています。

- 安全のため以下の注意事項を必ず守ってください。

注意

電源を入れると、こて先の温度は200～450℃の高温に達します。
取扱いを誤ると、やけど・火災の恐れがありますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

- こて先周辺の金属部に触れない。
- 燃えやすいものの近くで使用しない。
- 周囲の人に「高温につき危険である」ことを知らせる。
- 使用を中断・終了する時や、その場を離れる時は電源を切る。
- 部品交換時や収納時は必ず電源を切り、十分に冷えたことを確認する。

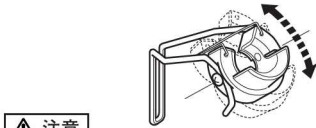
- 事故や故障につながりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

- はんだ付け以外の用途で使用しない。
- はんだかすを取るために、こてを作業台に打ちつけるなど強い衝撃を与えない。
- 本品を改造しない。
- 交換部品には、純正部品を使用する。
- 水につけたりぬれた手で使用しない。
- カードは傷つけたり折り曲げたりしない。また折れ曲がったカードは無理に挿入しない。
- プラグの差し抜きはプラグを持って行う。
- はんだ付けする際、煙が発生するので、よく換気をする。
- その他危険と思われる行為は行わない。

4. 組み立て

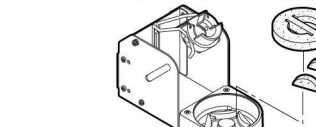
A. こて台

- 差し込み口 (口金) を止めている2本のねじをゆるめてお好きな角度に固定してください。



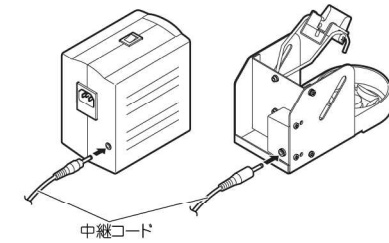
注意

あまりたてた状態にするとグリップが高温になります。
あまりねかせると落下しやすくなります。ご注意ください。



注意

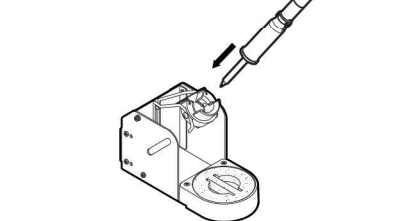
スポンジは水に濡らさずにそのまま使用するとこて先をだめにしてしまうことがあります。



カチッと音がするまで差し込みます。

レセプタクル

はずす時は突起部を押し込みながらはずしてください。



- 本品は圧縮タイプのスポンジを使用しています。水に濡らすと膨張します。必ず水で濡らしてお使いください。

1. スポンジ小をこて台ベースのいずれかの穴に入れます。
2. こて台ベースに水を適量入れます。スポンジ小が水を吸い上げ、いつも湿った状態を保てます。
3. スポンジ大を水に濡らし、こて台ベースに置きます。

- スリーブ機能を使用する場合

スリーブ機能を使用する場合はこて台とはんだこてステーションの裏側のジャックに中継コードを接続してください。

注意

中継コードを抜き差しする時は必ず電源を落とした状態で行ってください。

B. こて部

耐熱パッドを取付けます。こて先交換時に使用します。

C. ステーション

注意

こて接続コードとレセプタクルの抜き差しは、電源スイッチを切ってから行ってください。電源スイッチが入ったままでは基板が壊れる可能性があります。

1. 電源コードをステーション後面のインレットに接続します。
こて接続コードとレセプタクルを接続します。

2. こて部をこて台に置きます。

3. 電源プラグをコンセントに差し込みます。

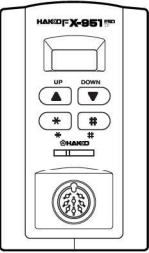
注意

本機には静電気対策が施されていますので、必ず接地してご使用ください。

5. 使用方法

操作と表示

操作ボタン



ハッコーFX-951のフロントパネルには4つの操作ボタンがあります。

オフセット入力をはじめたり、すでに入力されているオフセット値を表示します。

データ入力値を決定し、そのデータ入力モードを終了します。
1秒未満押した時はすでに入力されている設定温度を表示します。

表示されている値を上げます。

表示されている値を下げます。

1. 電源スイッチをONにします。

2. 設定温度に達するとブザーが鳴り使用可能であることを教えてくれます。
また、表示部右下のヒーター通電ランプが点滅状態になります。

● 温度の設定/変更

例: 350℃から400℃に変更する場合

1. カードをステーションに差し込む

- 表示部の3桁目が点滅します。これで温度設定モードに入り、3桁目が入力可能であることを示します。

2. 3桁目の入力

- 上または下ボタンを用い、3桁目の数値を決定します。入力可能な数値は2～4です。(Fモード時は、4～8です。)希望の数値が表示されたら 決定ボタンを押します。点滅が2桁目に移ります。

3. 2桁目の入力

- 上または下ボタンを用い、2桁目の数値を決定します。入力可能な数値は0～9です。(Fモード時も同じです。)希望の数値が表示されたら 決定ボタンを押します。点滅が1桁目に移ります。

4. 1桁目の入力

- 2桁目の入力時と同様の操作を行います。入力可能な数値は0～9です。(Fモード時も同じです。)希望の数値を選択後、決定ボタンを押します。これで内部メモリーに記憶し、新しい設定温度を表示後、ヒーター制御を始めます。

カードを差し込んである状態から、設定温度を変更するには…

表示

ハッコーFX-951は3つの表示デジットを持っています。
選択されたモードに従い、
● センサー温度 (こて先温度)
● データ入力値
入力された値 (入力方法をご覧ください。)
● 温度目盛
℃または°F
● エラー検出 (エラー表示をご覧ください。) を表示します。

また、表示部右下のヒーター通電ランプが点滅すると設定温度に達し、使用可能であることを教えてくれます。

ブザーで使用者に次のことを教えてくれます。

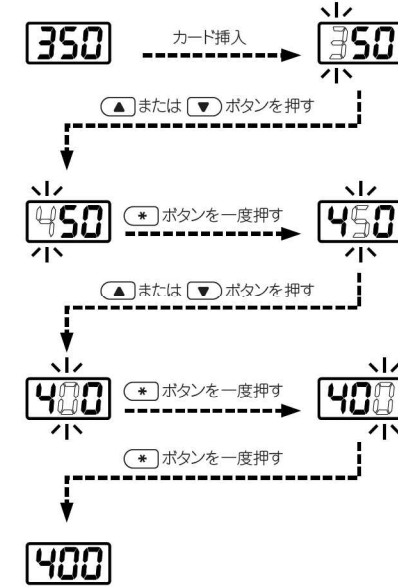
- 設定温度に達した場合、ブザーが1回鳴ります。
- センサー温度が設定温度より下限設定分、低くなった場合に警報ブザーが鳴ります。センサー温度が下限設定範囲内に戻ればブザーは停止します。
- 異物、この商品では使えないこて先、またはこて先のはんだ付け側をハッコーFM-2028に挿入してしまった場合、表示部が点滅し、ブザーが連続して鳴ります。
- ハッコーFM-2028にエラーが発生した場合はブザーが連続して鳴ります。

注意

工場出荷時には、350℃にセットしてあります。
設定温度を確認したい時は 決定ボタンを押してください。
2秒間設定温度が表示されます。

注意

使用しない時はこてをこて台に置いてください。



注意

温度設定を最後までせずに電源を切ると、新しい設定温度は記憶されません。

1. 決定ボタンを1秒以上押し続けます。最初に現在の設定温度が表示され、1秒後、3桁目の数字が点滅し温度設定モードに入ったことを示します。
上記2～4の温度の設定/変更に従って操作してください。
2. 決定ボタンを押している時間が1秒未満の時は、2秒間設定温度を表示し、その後こて先温度の表示に戻ります。

5. 使用方法

●こて先の取外しと挿入

⚠ 注意

こて先は高温になっています。やけどの原因となりますので、取扱には十分ご注意ください。
耐熱パッドであっても熱いこて先を長時間保持することは避けてください。

こて先の取外し

- スリーブ組品のロック部(二箇所)を押し込みながら、スリーブ組品を外します。

⚠ 注意

- ロック部を押した状態でスリーブ組品を引かないとロック部が破損する恐れがあります。
- スリーブ組品を外さずに直接こて先を引き抜くと、その勢いでスリーブが飛んで破損する恐れがあります。

- スリーブ組品の先端を持って、こて先を抜きます。

こて先の挿入

- こて先の先端を持ち、スリーブ組品へ挿入します。

⚠ 注意

挿入する際はカチッと音が鳴るところまでこて先を押し込んでください。こて先がはまりましたらそれ以上無理に押し込まないようにしてください。

- こて先をしっかりとコネクタ組品にはめ込みます。

注記:
こて先が正しく挿入されていないと **[5-E]** という表示が現れます。

●こて先温度のオフセット

例: 設定温度が400℃で、実際のこて先温度が410℃の場合
設定温度との差が10℃あるためオフセット値として-10を入力します。

1. カードをステーションに差し込む

- 温度設定モードに入り、3桁目の表示が点滅します。

2. **[*]** ボタンを押す。

- オフセット入力モードに入ります。

3. こて先温度と設定温度の差を入力します。

入力可能な範囲は-50～+50℃
(*Fモード時は-90～+90°Fです。)

⚠ 注意

オフセット入力モード時(点滅している時)は、現在オフセット値で制御されます。

a. 3桁目の入力

- [▲]** または **[▼]** ボタンを用い、3桁目の数値を決定します。入力可能な数値は0(プラスの場合)と-(マイナスの場合)です>(*Fモード時は0～9です。)*希望の数値が表示されたら、**[*]** ボタンを押します。点滅が2桁目に移ります。

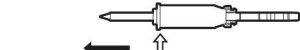
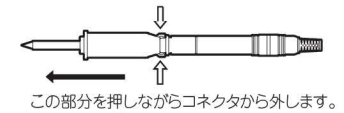
b. 2桁目の入力

- [▲]** または **[▼]** ボタンを用い、2桁目の数値を決定します。入力可能な数値は0～5です>(*Fモード時は0～9です。)*希望の数値が表示されたら、**[*]** ボタンを押します。点滅が1桁目に移ります。

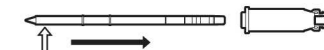
c. 1桁目の入力

- 2桁目の入力と同様の操作を行います。入力可能な数値は0～9です>(*Fモード時は0～9です。)*希望の数値を選択後、**[*]** ボタンを押します。これで内部メモリーに記憶され、新しいオフセット値で、ヒーター制御を始めます。

カードを差し込んである状態から、オフセットを入力するには…



スリーブ組品の前側部分を持って、こて先を取り外します。



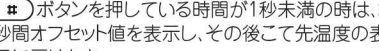
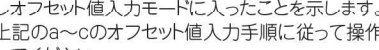
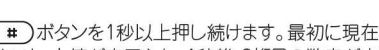
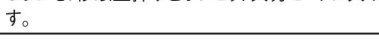
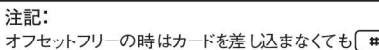
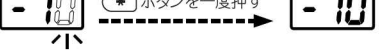
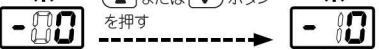
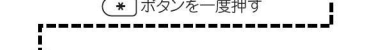
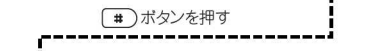
この部分を持ってこて先をスリーブ組品へ挿入します。

⚠ 注意

こて先先端を持つ時は、やけどの危険があります。必ず耐熱パッドを用いてください。



この部分を持ってコネクタへ挿入します。



6. パラメーター設定

工場出荷時には次の設定でセッティングされています。

℃/℉の切換え	℃
パワーセーブ	0分
下限設定温度	150℃
OFFSETフリー設定	4.0
設定温度	350℃

●パラメーター入力モード

1. ℃(摂氏)、℉(華氏)の切換え

2. パワーセーブ設定

はんだこてをこて台においてからパワーセーブ機能が働くまでの時間を設定します。

注記:

パワーセーブ機能を使用しない場合は、中継コードでこて台とステーション本体を接続しないでください。

パワーセーブ 例)
2 0 スリーブ(こて台に置いた直後)
2 10 スリーブ(こて台に置いて10分後)
2 30 オートパワーシャットオフ(こて台に置いて30分後)

注記:

パワーセーブ機能は1分単位で設定できます(最長30分)。

- スリーブ機能が動き、こて先の温度が下がりはじめるとブザーが1回鳴ります。

- [SLP]**の時は、いずれかのボタンを押すかこて台からはんだこてを取り出すことでヒーターへの通電は再開されます。

注記:

設定温度が300℃/570°F未満の時にはスリーブ機能は働きません。

- オートパワーシャットオフ機能が動き、ヒーターへの通電が停止した場合、ブザーが3回鳴ります。

- [---**の時は、はんだ付けを再開するには通電スイッチを一旦オフにし、再度オンにしてください。

3. 下限設定温度入力

下限設定温度入力とは

- センサー温度が設定温度より下限設定分、低くなった場合にエラー表示し警報ブザーが鳴ります。センサー温度が設定範囲内に戻ればブザーは停止します。

下限設定温度範囲
摂氏:30～150℃
華氏:50～300°F

(例) 設定温度が350℃で下限設定温度が100℃の場合、温度が250℃まで低くなった時、警報ブザーが鳴ります。

4. オフセットフリー設定モード

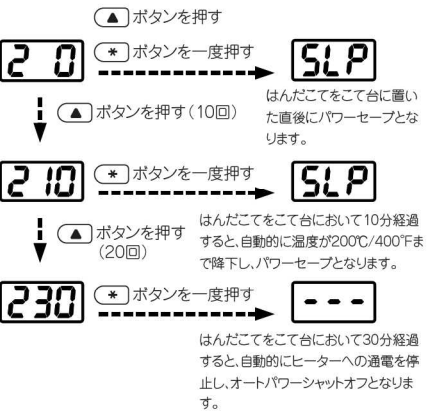
ハッコー-FX-95 1は4つのパラメーターを持っています。

- 1) 温度表示℃、℉切換え
- 2) パワーセーブ
- 3) 下限設定温度
- 4) オフセットフリー設定モード

いったんパラメーターモードに入ると以下の順に設定されます。全てのパラメーターが設定された後、通常の動作に戻ります。

1. 電源スイッチを切ります。
2. カードをステーションに差し込みます。
3. **[▲]** と **[▼]** ボタンを同時に押しながら電源スイッチを入れます。
4. **[▲]** と **[▼]** ボタンを押し続けます。**[1℃]**(摂氏)または**[1℉]**華氏)が表示されればパラメーター入力モードに入っています。
- **[▲]** または **[▼]** ボタンを押すと**[1℃]**または**[1℉]**に交互に変わります。
- **[*]** ボタンを押すと表示が決定され、パワーセーブの入力に移ります。

ステーションがパラメーター入力モードに設定されましたら、下記の手順に従ってください。



- 下限設定温度の入力に入ると3桁目が点滅します。以降、温度設定の要領で数値を入力、決定します。

- 下限設定温度範囲(左表参照)を超える数値を入力すると、再度、3桁目の入力に戻りますので正しい数値を入れ直してください。

- 決定後、次のオフセットフリー設定モードに移ります。

- オフセットフリー設定モードに移ると**[4.0]**か**[4.1]**が表示されます。

[4.0]: カードを差し込まないとオフセット値入力できません。

[4.1]: カードを差し込まなくてもオフセット値入力できます。

[▲] または **[▼]** ボタンで**[4.0]**か**[4.1]**を選択後 **[*]** ボタンを押します。パラメーター入力モードを終了し、ヒーターに通電し通常の制御を開始します。

7. エラー表示

●センサーエラー



●下限設定温度エラー

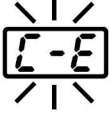


例: 350℃(400℃-500℃)
設定温度 下限設定温度
OR
650°F(750°F-1000°F)
設定温度 下限設定温度

●ヒーター端子短絡エラー



●はんだこてエラー



センサー/ヒーター切れ(センサー回路を含む)の可能性がある場合 **[5-E]**を表示し、通電をストップします。

⚠ 注意

こて先が正しく挿入されていない場合にもセンサーエラーとなります。

センサー検出温度が設定温度より下限設定分、低くなった場合に **[H-E]**が表示され、警報ブザーが鳴ります。こて先温度が設定温度範囲内に上昇すれば、ブザーは鳴り止みます。

例
設定温度が400℃/750°Fで、下限設定温度が50℃/100°Fの時、ヒーターは通電されているにもかかわらず、温度が低下し続け、最終的に右に示す値より低下した場合、表示される値が点滅してこて先温度が低下していることを示します。

こて先が間違った方向に挿入されたり、この商品では使えないこて先が挿入されたり、コネクタとの接続部に異物が混入したりしていると **[HSE]**が点滅表示され、警報ブザーが連続して鳴ります。

こて接続コードがステーションに接続されていないか、間違ったはんだこてが接続されると、**[C-E]**が表示されます。ブザーが連続して鳴ります。



白光株式会社

http://www.hakko.com

〒556-0024 大阪府浪速区塩草2丁目4番5号
TEL: (06) 6561-1574 (代) FAX: (06) 6568-0821